



2024年7月30日

各位

会社名株式会社 A i m i n g
代表者名代表取締役社長 椎葉 忠志
(コード番号: 3911 東証グロース)
問合せ先取締役 経営管理部 田村 紀貴
ディビジョンディレクター
(E-mail: ir@aiming-inc.com)

2024年12月期第2四半期(中間期)連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

当社は、2024年4月26日に公表いたしました2024年12月期第2四半期(中間期)(2024年1月1日~2024年6月30日)の連結業績予想と実績を比較し、下記の通り差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年12月期第2四半期(中間期)(2024年1月1日~2024年6月30日)の連結業績予想と実績の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する中間 純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円				円 銭
予想値(A)	8,560	△806	△823	△955	△20.46
実績値(B)	8,096	△748	△553	△934	△21.10
増減額(B-A)	△464	58	269	20	—
増減率(%)	△5.4%	—	—	—	—
(参考)前年同四半期実績 (2023年12月期第2四半期)	9,027	419	508	△160	△4.00

2. 差異の理由

2024年4月26日公表の2024年12月期第2四半期(中間期)(2024年1月1日~2024年6月30日)の連結業績予想は、売上高においては、2024年12月期第1四半期に『ドラゴンクエストタクト』の3.5周年イベントやその他タイトルの年始イベントがあったことから、運営中のタイトル全般で減少とする一方で、新規開発中の一つのタイトルについて事業スキームを非連結の製作委員会として契約する予定としており、当該非連結製作委員会からの受託売上および製作委員会内に生じる営業外損失を連結処理にて取り込むことを見込んでおりました。また、費用面においては、新規タイトルの開発進捗に伴う人件費や業務委託費の増加とする一方で、広告宣伝費や売上高の減少に伴う変動費など、費用全体では減少する見込みとしました。その結果、親会社株主に帰属する中間純利益は、前四半期比(2024年12月期第1四半期親会社株

主に帰属する四半期純損失 346 百万円) で減益予想 (2024 年 12 月期第 2 四半期親会社株主に帰属する中間純損失 955 百万円) としておりました。

この度、2024 年 12 月期第 2 四半期 (中間期) において、連結予想値と実績値の差異が生じたのは、上記に記載した非連結製作委員会の組成における他出資者との契約締結が遅延したことにより、3 億円強の受託売上および 1 億円強の営業外損失の計上が後ろ倒しとなりました。その一方で、運営中タイトルは全般にやや苦戦するも広告宣伝費や人員の適正化による業務委託費を抑制したことにより親会社株主に帰属する中間純利益では差異は微少となりました。

このため、売上高は予想値に対して 464 百万円下回ったものの、営業利益は 58 百万円、経常利益は 269 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は 20 百万円それぞれ上回ることとなりました。

以上